

## 第26回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成31年1月15日（火） 10:00-12:01

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、市川委員、小野田委員、倉本委員、竝木委員、藤井委員、  
松本委員、山崎委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、行松審議官、須藤参事官、高倉参事官、山口参事官、  
森参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

藤吉課長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

國中理事

国際宇宙探査センター

佐々木センター長

宇宙科学研究所

藤本副所長

山田理学委員会委員長

船木工学委員会幹事

4. 議事要旨

(1) 宇宙基本計画工程表改訂について

事務局から、資料1を用いて、12月の宇宙開発戦略本部で改定された工程表の説明があった。

委員から特段の質問・意見はなく、座長から各委員に、今年も年末の工程表改定に向けて審議を進めていく旨の説明があった。

(2) 平成31年度宇宙科学・探査予算案について

文部科学省から、宇宙科学・探査に係る平成31年度予算案について説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

○フロントローディングという新たな予算が認められたことは重要であり、基盤経費が横ばいであっても、実質的に基盤を支えるための経費が充実したと言えるのではないか。

○プロジェクトの数が限られる中、工学分野では、プロジェクトを通じてのみならず技術自体への先行投資を行い、その中でも若手を育てることが重要。

○宇宙科学予算は平成31年度予算案で回復傾向にあるものの、また次の概算要求に向け、中身をよく詰めていかなければならない。

(3) 科学コミュニティにおける宇宙科学・探査ミッションの検討状況について

学界を代表する委員とJAXAの宇宙理学委員会・宇宙工学委員会から科学コミュニティにおける宇宙科学・探査ミッションの検討状況について説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

- 「技術のフロントローディング」は工学的な印象を持つ他方、理学系がリードしているセンサ開発のような部分も、フロントローディングの対象として考えるとよいのではないか。
- 科学コミュニティのボトムアップの議論に、社会的要請や意義等を考慮したトップダウンをどう組み込んでいくか、多くのコミュニティ・学会等を交えた、その相互の意見の交流が重要。
- JAXA宇宙科学研究所と大学の分担の在り方、それぞれが果たすべき役割在り方、教育・人材育成、研究費の在り方等を勘案した大きな議論を、今後10年、20年を見据えて進めていくべき。

(4) その他

先月開催された「月極域探査ワークショップ」、及び今月開催された「宇宙科学シンポジウム」の結果についてJAXAより報告があった。

以 上